



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 共立メンテナンス
 コード番号 9616 URL <http://www.kyoritsugroup.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 佐藤 充孝
 (氏名) 上田 卓味

TEL 03-5295-7778

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|-----|-------|------|-------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 25年3月期第3四半期 | 70,546 | 8.3 | 4,598 | 10.9 | 3,781 | 24.7 | 2,021 | 59.5 |
| 24年3月期第3四半期 | 65,151 | 4.4 | 4,145 | 21.7 | 3,032 | 23.6 | 1,267 | 81.7 |

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 2,094百万円 (79.6%) 24年3月期第3四半期 1,166百万円 (24.7%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年3月期第3四半期 | 143.25 | — |
| 24年3月期第3四半期 | 88.34 | 78.80 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 25年3月期第3四半期 | 120,697 | 33,087 | 27.4 | 2,344.76 |
| 24年3月期 | 125,649 | 31,551 | 25.1 | 2,235.83 |

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 33,087百万円 24年3月期 31,551百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年3月期 | — | 19.00 | — | 19.00 | 38.00 |
| 25年3月期 | — | 19.00 | — | — | — |
| 25年3月期(予想) | — | — | — | 19.00 | 38.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|-----|-------|------|-------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 100,000 | 9.7 | 6,360 | 5.7 | 5,200 | 13.0 | 2,790 | 17.4 | 197.71 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 25年3月期3Q | 15,125,582 株 | 24年3月期 | 15,125,582 株 |
| ② 期末自己株式数 | 25年3月期3Q | 1,014,358 株 | 24年3月期 | 1,013,844 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 25年3月期3Q | 14,111,559 株 | 24年3月期3Q | 14,343,457 株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 3 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 3 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 3 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 3 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | 8 |
| (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 8 |
| (5) セグメント情報等 | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州財政危機や中国経済の減速などを受け低迷したものの、11月後半から、円安、株高の動きにより明るい兆しも見えはじめました。

このような環境下、当第3四半期連結累計期間は、主力事業である寮事業が前期を上回る期初稼働率でスタートし、その後も堅調に推移したほか、ホテル事業につきましても、ドーマーイン（ビジネスホテル）事業、リゾート（リゾートホテル）事業共に、夏場に引続き、前年同期を上回る高稼働率にて好調に推移いたしました。

この基幹2事業が堅調に推移した結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高70,546百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は4,598百万円（前年同期比10.9%増）、経常利益3,781百万円（前年同期比24.7%増）、四半期純利益は2,021百万円（前年同期比59.5%増）と増収増益基調にて推移し、第3四半期連結累計期間としては過去最高益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①寮事業

寮事業では、期初稼働率96.5%（前年比1.2ポイント増）と前期を上回ってスタートし、その後も、堅調に推移しております。寮事業全体での12月末現在の稼働契約数は28,308名（前年同期に比べ508名増）となったものの、当期は前期に比べ新入寮生の3月早期入寮の増加があり、当第3四半期連結累計期間においては、契約金等の売上が期間比較にて減少しております。この結果、売上高29,304百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益3,690百万円（前年同期比7.4%減）となりました。

②ホテル事業

ドーマーイン事業では、当第3四半期連結累計期間に新規オープンした『ドーマーインPREMIUM渋谷神宮前』『天然温泉 紀州の湯 ドーマーインPREMIUM和歌山』『天然温泉 霧桜の湯 ドーマーイン鹿児島』『ドーマーインEXPRESS松江』『天然温泉 金華の湯 ドーマーイン岐阜駅前』の5事業所が順調に稼働いたしました。また、既存事業所の稼働率も、引続き前年同期を上回って好調に推移しております。さらに当期は、JCSI（日本版顧客満足度指数）のビジネスホテル部門での顧客満足度1位の獲得に続き、J.D.パワーアジア・パシフィック2012年日本ホテル宿泊客満足度調査1泊9,000円未満部門においても第1位を獲得するなどお客様の好評を博しております。

リゾート事業では、『モルデンの湯 ラビスタ安比高原』を新規オープンし、また既存事業所においても、夏のリゾートシーズンをはじめ冬場に向けても好調に稼働し、震災影響を受けた前期を大幅に上回るのみならず、前々期をも上回る稼働にて推移いたしました。この結果、ホテル事業全体で売上高29,736百万円（前年同期比15.8%増）、営業利益2,787百万円（前年同期比63.4%増）と増収増益基調を堅持し、収益基盤として確立しつつあります。

③総合ビルマネジメント事業

総合ビルマネジメント事業では、建設施工工事部門において受注の増加に伴い増収となりましたが、ビル賃貸部門では、前年同期に比べ大口解約発生という厳しい環境にて推移いたしました。この結果、売上高9,816百万円（前年同期比11.6%増）、営業損失40百万円（前年同期に比べ62百万円減益）となりました。

④フーズ事業

フーズ事業では、個人消費環境の低迷のなか一部外食店舗の伸び悩み等により回復が遅れております。この結果、売上高3,696百万円（前年同期比11.6%増）、営業損失89百万円（前年同期に比べ21百万円増益）となりました。

⑤デベロップメント事業

デベロップメント事業では、開発物件が期末に傾斜したことに伴い前年同期に比べ、当第3四半期連結累計期間では、竣工・引渡しが減少いたしました。この結果、売上高は1,509百万円（前年同期比38.7%減）となり、営業損失は30百万円（前年同期に比べ48百万円減益）となりました。

⑥その他事業

その他事業は、ウェルネスライフ事業（高齢者向け住宅の管理運営事業）、PKP事業（自治体向け業務受託事業）、単身生活者支援事業及び保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業であります。これらの事業の合計は、売上高3,841百万円（前年同期比29.3%増）、営業損失288百万円（前年同期に比べ60百万円減益）となりました。なお、営業損失の主な原因はPKP事業の拡大に伴う営業費用であります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、120,697百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,951百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少などによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、87,609百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,488百万円の減少となりました。主な要因は、前受金、社債の減少などによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、33,087百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,536百万円の増加となりました。主な要因は、利益剰余金の増加などによるものであります。

この結果、自己資本比率は27.4%となり、前連結会計年度末に比べ2.3ポイントの増加となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社及び当社グループの通期業績予想につきましては、基幹2事業が当初予測を上回り堅調に推移していたものの、光熱費等の今後の価格上昇リスク、将来のさらなる成長に向けたホテルのリニューアル工事等の実施を考慮し、据え置きとしておりました。しかしながら、特にホテル事業（ドリーミン事業・リゾート事業）において、依然として当初予想を上回る高稼働にて推移しており、上記費用を吸収してもなお増益基調となる見通しとなったため、平成25年3月期の通期業績予想を上方修正いたしました。

詳細につきましては平成25年2月8日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ25百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 17,342 | 11,348 |
| 受取手形及び売掛金 | 3,790 | 4,030 |
| 仕掛販売用不動産 | 1,746 | 2,962 |
| 未成工事支出金 | 87 | 321 |
| その他 | 5,314 | 5,006 |
| 貸倒引当金 | △46 | △37 |
| 流動資産合計 | 28,234 | 23,631 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 30,423 | 29,723 |
| 土地 | 23,852 | 23,595 |
| その他（純額） | 9,378 | 9,207 |
| 有形固定資産合計 | 63,654 | 62,525 |
| 無形固定資産 | 3,663 | 3,627 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 5,687 | 5,288 |
| 差入保証金 | 9,602 | 10,657 |
| 敷金 | 8,484 | 8,638 |
| その他 | 6,421 | 6,442 |
| 貸倒引当金 | △193 | △197 |
| 投資その他の資産合計 | 30,001 | 30,828 |
| 固定資産合計 | 97,319 | 96,981 |
| 繰延資産 | 95 | 83 |
| 資産合計 | 125,649 | 120,697 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,402 | 3,108 |
| 短期借入金 | 15,596 | 20,551 |
| 1年内償還予定の社債 | 1,520 | 1,360 |
| 未払法人税等 | 1,600 | 737 |
| 前受金 | 10,738 | 7,779 |
| 賞与引当金 | 840 | 601 |
| 役員賞与引当金 | 179 | 163 |
| 完成工事補償引当金 | 10 | 11 |
| その他 | 5,072 | 4,272 |
| 流動負債合計 | 38,961 | 38,585 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 8,225 | 7,175 |
| 長期借入金 | 40,100 | 35,434 |
| 退職給付引当金 | 1,183 | 1,271 |
| 役員退職慰労引当金 | 306 | 308 |
| その他 | 5,319 | 4,834 |
| 固定負債合計 | 55,135 | 49,024 |
| 負債合計 | 94,097 | 87,609 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 5,136 | 5,136 |
| 資本剰余金 | 5,943 | 5,943 |
| 利益剰余金 | 23,042 | 24,490 |
| 自己株式 | △1,809 | △1,810 |
| 株主資本合計 | 32,312 | 33,760 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △761 | △687 |
| 為替換算調整勘定 | — | 14 |
| その他の包括利益累計額合計 | △761 | △672 |
| 純資産合計 | 31,551 | 33,087 |
| 負債純資産合計 | 125,649 | 120,697 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 65,151 | 70,546 |
| 売上原価 | 52,381 | 56,340 |
| 売上総利益 | 12,770 | 14,206 |
| 販売費及び一般管理費 | 8,624 | 9,607 |
| 営業利益 | 4,145 | 4,598 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 69 | 58 |
| 受取配当金 | 31 | 31 |
| 有価証券売却益 | 3 | 73 |
| 解約保証金収入 | 90 | 72 |
| その他 | 53 | 93 |
| 営業外収益合計 | 248 | 329 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,097 | 945 |
| その他 | 263 | 201 |
| 営業外費用合計 | 1,361 | 1,146 |
| 経常利益 | 3,032 | 3,781 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 124 | 236 |
| その他 | 21 | 15 |
| 特別利益合計 | 145 | 252 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | — | 153 |
| 災害による損失 | 106 | — |
| その他 | 397 | 84 |
| 特別損失合計 | 504 | 237 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,674 | 3,796 |
| 法人税等 | 1,407 | 1,774 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,267 | 2,021 |
| 少数株主利益 | 0 | — |
| 四半期純利益 | 1,267 | 2,021 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,267 | 2,021 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △100 | 73 |
| その他の包括利益合計 | △100 | 73 |
| 四半期包括利益 | 1,166 | 2,094 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,166 | 2,094 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 0 | — |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------|--------|--------------------|-------|--------------|--------|--------------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 寮 | ホテル | 総合ビル マネジメ ント | フーズ | デベロッ プメント | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 29,159 | 25,626 | 5,503 | 1,035 | 1,131 | 62,457 | 2,694 | 65,151 | — | 65,151 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 83 | 62 | 3,294 | 2,277 | 1,330 | 7,047 | 276 | 7,323 | △7,323 | — |
| 計 | 29,242 | 25,688 | 8,797 | 3,313 | 2,461 | 69,504 | 2,971 | 72,475 | △7,323 | 65,151 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 3,986 | 1,706 | 21 | △110 | 17 | 5,621 | △227 | 5,393 | △1,248 | 4,145 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ウェルネスライフ事業(高齢者向け住宅の管理運営事業)、PKP事業(自治体向け業務受託事業)、単身生活者支援事業及び保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業、その他の付帯事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,248百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,254百万円が含まれております。全社費用は主に本社の財務経理部等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------|--------|--------------------|-------|--------------|--------|--------------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 寮 | ホテル | 総合ビル マネジメ ント | フーズ | デベロッ プメント | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 29,216 | 29,672 | 5,751 | 1,130 | 1,213 | 66,984 | 3,562 | 70,546 | — | 70,546 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 88 | 63 | 4,065 | 2,565 | 296 | 7,079 | 279 | 7,358 | △7,358 | — |
| 計 | 29,304 | 29,736 | 9,816 | 3,696 | 1,509 | 74,064 | 3,841 | 77,905 | △7,358 | 70,546 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 3,690 | 2,787 | △40 | △89 | △30 | 6,317 | △288 | 6,028 | △1,430 | 4,598 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ウェルネスライフ事業（高齢者向け住宅の管理運営事業）、PKP事業（自治体向け業務受託事業）、単身生活者支援事業及び保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業、その他の付帯事業を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,430百万円には、セグメント間取引消去△25百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,405百万円が含まれております。全社費用は主に本社の財務経理部等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「フーズ」セグメントにおいて、収益性の低下により投資額の回収が困難と見込まれた外食店舗について、当該外食店舗の資産グループの帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は当第3四半期連結累計期間においては87百万円であります。

「その他」セグメントに含まれるウェルネスライフ事業において、収益性の低下により投資額の回収が困難と見込まれた施設について、当該施設の資産グループの帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は当第3四半期連結累計期間においては65百万円であります。